

みみょう幼稚園だより



令和2年10月号 ***** <http://mimyo.org/youchien/>

第95回運動会、感謝、感激！

毎年、実施当日まで、暑さにお天気に、心配の尽きない運動会なのですが、今年は、新型コロナウイルス対応という、きっと後世まで語り継がれるであろう大きな障害の中での開催となりました。開催に当たっては、もちろん密を避けながら、子どもたちにとって思い出に残る楽しい運動会にしようと、自園はもとより、みみょうグループの園長会や主任会での検討も重ねて参りました。プログラムの厳選や観覧者の制限など、保護者の皆様にもたくさんのご心配をお掛けし、また、感染予防のご努力やご協力を重ねていただきました。おかげ様で天候にも恵まれ、それぞれが最高のパフォーマンスをお見せすることができたと感激しています。おたより帳にも、嬉しい感想をたくさん書いていただき、先生たちは益ます張り切っています。本当にありがとうございました。

一年の折り返しを迎えました。一人ひとりの成長が一層促される毎日にしていくために、日々の保育や行事について、引き続きしっかりと工夫や検討を重ねていきたいと思えます。ご意見やご要望、ご心配などありましたら、遠慮なくお伝えください。



個性と自主性

本園では、「感謝と思いやりのある自主的な行動のとれる子ども」を育てるために、質の高い保育、価値あるあそびの時間の創造に努めています。さて、“自主的な行動”というとどんな姿を思い浮かべられますか？自主性とは、他者からの指示や援助を受けることなく、自ら率先してやるべきことを行う態度や性質のことを指します。

さくら組さんの保育室を覗いてみましょう。「さあ、お片づけをしましょう。」先生が声をかけると、おもちゃ箱を取ってくる子、組み立てていたブロックをバラバラにする子、積み木を集める子、様々な姿を見ることができます。中には、あそびを続けている子どももいます。少し時間が経つと、自分のあそびだけでなく隣のコーナーの片づけを手伝う子も出てきます。先生たちの最後の片づけまで手伝ってくれる子どももいます。次の行動を予想して、一人二人とピアノの前に座る子どもも出てきます。4月から一緒に過ごしてきた中で、毎日のあそびを通して、それぞれに身につけてきた姿です。60人いれば60通りの姿があります。60通りの個性が、60通りの自主的な姿につながっているのです。素早くやりたい、丁寧にやりたい、じっくりやりたい、お友だちと一緒にやりたい、今はやりたくない…。子どもの行動には、個性と思いに溢れています。子どもの個性を正しく理解し、どのように行動していくかを見ていきましょう。今は、やりたくない子どもは、あそびに夢中になって、集中力を培っている真っ最中の意志の強いお子さんとも言えます。その気持ちをくみ取って、見通しを持たせてあげると、きっと、納得して切り替えられるようになってくるでしょう。率先してやるべきことをどのように示していくかがとても重要です。幼稚園では、発達に応じた時間の流れを考え、満三歳や年少では衣服の着脱や排泄の自立といった生活面、年長になるとグループでの話し合いなど、社会性の基礎づくりをねらいにした時間を確保しています。“みんなであそぼう”の時間もそうした個性と自主性を伸ばす意味でもとても大切にしています。簡単に出来た出来ないという判断を下すのではなく、個性に応じた行動として理解できるかどうか保育者の手腕でもあるのです。そして、何より各ご家庭における成長や行動の理解と声かけが、家庭の教育力・教育方針として、子どもたちの個性や自主性に大きく反映されていくことも、意識し、大切にしていきたいと思っています。

園長 三上 玲子